

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社大塚台夕月		
事業所名	グループホームの野の花		
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100097-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は住宅地の中に位置し、近辺に保育園や児童館、小学校、コミュニティーセンター等があり、社会資源に恵まれている。地域の自治会に加入し、入居者や職員は地域の行事等に参加し、顔馴染みになり、地域の一人としてとけ込んで生活している。地域の高齢者がカラオケ教室を当施設で開催し、一緒に歌ったり話して楽しんでいる。健康維持のために、日課としてテレビ体操を行い、天気の良い日は近隣の公園へ出かけ、天候の悪い日は室内で歩行訓練をして、健康維持と生活のメリハリと気分転換を図っている。他のグループホームとバスで遠出したり、敬老会やクリスマス会など、年間の行事と一緒に行って、楽しみがもてるように計画している。今年度は地域の人や家族も招待して、全員参加の小運動会を行い、楽しい一日を過ごした。日中は全員がリビングに集まるので、全員の身体的、精神的な変化を受け止め、すばやく対応できることがグループホームの利点だと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者が安心して最後までその人らしく暮らすためには、職員が自己研さんに努め、楽しくケアすることが、利用者の笑顔につながると管理運営に努めている。中間管理職の職員は、職員でありながら、住民として地域のボランティア活動もしており、ホームと地域との交流のつなぎ役となり、全職員共に利用者を支えている。利用者は、地域の人々と交流しながら、おだやかな表情で過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で、その人らしく地域と関わりを持ちながら、ゆっくりとして生活を送れるように」と理念を掲げ、職員全員でそのことを共有し、実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念で、管理者が中心となって作成している。職員は、日常の実践を折々に振り返る原点にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の公園に散歩に行っではゴミ拾い活動を行い、一斉清掃に参加している。自治会のふれあい会食や児童館から、敬老会や餅つき大会等の誘いを受け、参加している。	自治会に加入し、行事や掃除に参加している。利用者は、散歩途中に公園の花壇に水やりをしたり、住民とあいさつを交わしたり、ホームでのカラオケ教室など、日常的に地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者が、毎月1回、当ホームのホールを開放して利用者と共に歌い、相互が楽しみを持てるように支援している。職員がキャラバンメイトの研修を受け、市の要請を受け、公民館で講演を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告を、会員全員にコピーして手渡し、評価に対してのホームの今後の更なる介護の質の向上に取り組む意思を報告した。質疑応答の時間も設け、災害時の対処の仕方や協力体制などを話し、安心して生活できる確認ができた。	定期的開催し、災害時の二次災害予防などの助言を運営に反映させているが、固定した参加者との現状報告が主で、利用者の参加は無く、家族の参加も毎回ではない。	利用者や家族、多様な人々の参加や意見を得て、サービス向上に生かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	理解しがたいことや分からないことは市の担当者に電話したり、直接出向いて確認したり、相談にのってもらっている。	市担当者との連携は、電話や出向いたりして行っているが、行政からの運営推進会議への出席やホームへの来訪までには至っていない。	行政に、運営推進会議への参加やホームを来訪してもらえるような機会づくりの工夫を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修も今まで3回実施し、職員間の情報を共有している。玄関の施錠はもちろん、身体拘束をしないケアをしている。特に徘徊がある人については、気をつけて、声掛けや注意をはらっている。	管理者および職員は、拘束行為を理解してケアを行っている。玄関は日中開錠されており、自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待について話し合う機会を設け、理解を促している。利用者の虐待が見過ごされないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一度、入居者の土地の売買で悩んでいた家族に、権利擁護の相談窓口があることを案内したことはある。職員も権利擁護に関する自己研鑽も含めて、家族に説明出来るように学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約については、不安や疑問を取り除き、安心して入居し、生活できるように十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族にも参加して頂き、意見・要望を自由に話せる機会を設け、運営や介護に生かせるようにしている。	管理者は、ホームの集いや催事の折に、家族同士で語り合いができるよう、また、家族の意見苦情も出しやすいように、個々とのかわりや場づくりをしている。出された意見などは、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、何か問題提起等があった場合、その都度、職員会議で検討し、運営に反映している。	管理者は、職員の意見などを聞き、運営に反映させる姿勢である。中間管理職員は、役割を自覚して、働きがいのある環境となるよう、全職員の意見を管理者につないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が、いきいきとやりがいを持って働けるように、就業規則に則り、労働条件を整え、実行している。代表者は、個々が楽しくないと入居者に優しく接することができないという方針のため、なるべく不満を解消できる環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量とケアの実績を把握し、介護の質が向上させられるよう、必要と思われる研修を推奨している。また、自ら技術や知識を身につけたいと希望する職員は、奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者と密に連絡を取り合い、お互いの施設での介護サービスの質が向上していくように、情報の交換をしたり、相談したりして交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活できるように、サービス導入する段階で、信頼関係が保てるように希望、要望を伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話がしやすい環境を作り、何でも聞いたり、言えるように、親しみのある関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き、必要な支援は何かを見極めるように努力し、適切なサービスが利用できるように情報を取り入れ、支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、尊厳をもって対応し、共に学び支え合う関係を築けるように対応し、安心した生活を送れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆がよりよく築かれるように、家族が面会に来たときは、双方が楽しく話しやすい環境を提供し、また来てもらえるように口添えをして支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月訪問してくれている地域の人とふれあい会食や、地域行事の参加で喜んでもらっている。また、仕事仲間だった人が電話してきたり、一緒に外出する事を支援し、共に喜んで楽しみを持てるようにしている。	利用者のなじみの人が来訪され、送り出す時には、次回の来訪を呼びかけている。利用者個々のなじみの関係が持続するよう、電話をかけるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立することなく、なるべく皆でリビングで過ごす環境作りをしている。本人達同士で会話したり、お互いいたわり合っている姿を見ると、喜ばしく、また、ほほえましく感じられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方は、定期的に家族に電話したり、面会に行ったりして、近況を確認している。退去された方にも、家族にも近況を尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きなことややりたいことを把握し、無理なく出来るように支援している。	アセスメントシートや日々の言動、家族からの情報で、思いや意向の把握に努め、利用者の意向がかなうよう、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの段階で、本人の生き方暮らし方、馴染みのものなど家族に聞き把握し、今後の暮らしに役立てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者から夜勤帯の状況の申し送り、朝のバイタルチェック等で心身の状況を把握し、1日の様子を伺ったり、申し送りノートにまず出勤者は目を通して、仕事に入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は、全職員から日常生活の様子や変化、気づいたことを聞き出し、また、看護師の立場から健康状態を把握し、よりよく暮らすための課題を見極め、適切なケアにつながるよう取り組んでいる。	利用者からは、日々の言動、来訪や電話による家族の意向、職員の意見、介護記録などを介護計画の作成に反映させている。モニタリングは毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤と日勤の記録は、色分けして、見る人が分かりやすいように情報の共有を図りながら、よりよい介護計画につながるよう見直し、工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりが体調や気分で変化があり、毎日同じでないで、その日その時でその人に合わせた柔軟な対応で、一人ひとりのニーズに出来るだけ添えるように、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にとけ込み、ホームに訪問してもらったり、招待を受けたり、外出すると声をかけてもらったりして、心豊かに楽しみながら暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携するかかりつけ医以外でも、本人が昔から信頼している病院であれば、その病院と提携して、本人が安心して医療を受けられるように支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医であり、受診は家族の依頼で看護師が同行している。協力医の往診が月2回で、いずれも受診後は、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、健康面の変化や気づいたことは、全て早急に看護師に連絡をとり、適切な受診が受けられ、重度化せずに未然に防ぐ対応をしている。また、主治医との連携も常時、図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には、的確な日常の情報を提供し、安心して、また、早期に退院出来るように支援している。病院には、たびたび面会をし、病院関係者から経過等の話を聞いて、信頼関係を築くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方から、「最後まで見てくれるからここをお願いしたい」と言われることが多いので、契約の段階でお話をしたり、サービス担当者会議等でも方針を共有している。	看取りについては、利用開始時に、家族へホームの指針を説明し、承諾を得ている。また、早い段階から医師を中心として、全員で話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、応急手当の講習の案内があるので、同じ職員に重ならないよう、どの職員も実践力を身につけるように訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力を得ながら、避難訓練を実施したり、自治会とも非常災害時の通報協力体制を整えている。	運営推進会議での自治会長の呼びかけで、災害時に地域からの協力体制は整いつつある。避難訓練は年2回実施している。備蓄は、食料だけである。夜間の災害対応に、職員は不安を抱いている。	夜間を想定した訓練や水、トイレ、衣類などの備蓄の整備と、種々の災害に対応できるよう意識の向上を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても、誇りやプライドを最後まで維持していることを職員が自覚していて、それを汚すことがないような言葉かけや対応をしている。	職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりのこれまでの人生を尊重した言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自由に言える環境を作り、職員は、本人の話に耳を傾けて聞く姿勢を築いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢者の望まれるペースに合わせ、その人らしい生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい個性を大切に、身だしなみやおしゃれに気がついた援助が出来るように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみのひとつであり、季節の物、高齢者が好む献立を提供している。お盆ふきやテーブルふきなど、役割が決まっている。	利用者と一緒に職員も同じものを食べ、なごやかな中にさりげなく介助している。準備や片づけなど、利用者の力が維持できるよう支援している。朝食は、利用者の起床に合わせて、食べられるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜は毎食、肉・魚も毎日摂取して、栄養のバランスを考慮し、本人の食べる量も把握して配膳している。嚥下の低下のある人は、きざみ食やミキサー食で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣になっている入居者は、毎食後口腔ケアを行っている。夕食後には、職員が付き添い、仕上げまで確認し、口腔ケアを行っている。義歯の方は義歯洗浄し、肺炎にならないように気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、排泄自立が出来るように支援を行う。便汚染があっても、本人が傷付かないようにそっと後始末し、自尊心を傷つけないようにしている。	排せつ支援が必要な利用者には、さりげなく自立に向けたトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘がちになりやすい為、野菜を多く取り入れた献立の工夫、日課としてテレビ体操や公園までの散歩、運動療法を加えた支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	高齢者は変化を好まれないため、入浴日、時間帯を替えない努力をしている。また、1対1の入浴介助のため、職員とのコミュニケーションの場になり、楽しみにしている入居者もいる。	利用者の希望に沿った入浴日、時間である。入浴を楽しみながら、利用者が思いを語る場ともなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の時間は一人ひとりまちまちだが、本人の意志に任せている。季節の気温に応じて、エアコンによる室温調整を行い、安心して眠れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、職員がすぐに確認出来るように表示しており、看護師が医師の指示に従って、的確に職員が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしに張り合いが持てるように、個々にあった支援をしている。歌好き、踊り好き、塗り絵・貼り絵、折り紙など、作業しながら楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、気分転換に体調に合わせて散歩に出かける。また、地域の集会所の食事会、個々の食事会と、家族のふれあいも大切にしている。	一人ひとり、車いすの利用者も含め、公園などへ日常的に散歩している。また、買い物や食事会、見学会など、希望に沿って出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する能力のある入居者には、自分で買い物したり、職員に買い物を頼むことが出来る。また、遠足やレクリエーション等で、買い物する機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の申し出で、いつでも電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まる食堂のテーブルの上には、季節の花を飾り、季節感を感じ取れるようにし、ホールや廊下にも花や景色の柄を飾り、会話が弾み、癒される空間を作っている。	テレビの音も程よい音量で、窓の日よけも利用者に合わせて上げ下げされ、壁には季節感のある作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者は、ゆったりとくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬はこたつを囲んで、みんなが集まれるような環境を作り、隣同士で会話をしている様子を見て、ほほえましく思うことがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の馴染みの物を部屋に置き、今までと同じ部屋を作ることで、安心した生活が送れるように工夫している。	居室入り口は、表札で目印としている。利用者の使い慣れた物や仏壇など、居心地よく、その人らしさが維持できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には、表札を取り付け、自分の部屋をわかりやすくしたり、建物全体が単純な作りで、間違いを起こさないように設計した。また、バリアフリーで、つまづきや危険な箇所がないように配慮した。		